

学校給食で 宮古島の味を堪能

9月24日、30日、市内の小・中学校で、沖縄の郷土料理を取り入れた給食が出されました。

出された沖縄料理は、ゴーヤチャンプルーとイナムルチ（沖縄豚汁）、宮古島産マンゴーを使ったマンゴーゼリーの3品。

南小学校では、試食会が開かれ、宮地市長や川端市議会議員なども児童と一緒に給食を味わいました。6年生の高山雄大さんたちは「学校交流で知り合った宮古島の友だちが食べている料理が味わえて、とてもうれしい。また、食べてみたいです」と楽しそうに話してくれました。



宮古島を完走した感想は 「ぱにぱに(最高)!!」

10月19日、第5回エコアイランド宮古島マラソンが宮古島市陸上競技場を発着点に開催され、津山市役所からもランニングを愛好する有志が参加し、宮古島の職員とマラソンを通じて交流を深めました。



スタートの様子



コスプレランナーも大会を盛り上げました

たんでいがあーたんでい(ありがとう)、宮古民謡

10月5日、津山文化センターで津山国際総合音楽祭の日本音楽コンサート(津山の民謡今昔2014)が開かれ、宮古島から宮古民謡歌手・砂川国夫さんがゲスト出演しました。

砂川さんは「伊良部トーガニー」など宮古島に伝わる民謡を、感情豊かに歌い上げ、宮古島の魂の唄を津山に伝えました。そして、来場者に宮古島の方言で「たんでいがあーたんでい(ありがとう)」と伝え、津山で宮古民謡を歌う喜びを表現しました。

また、美作大学沖縄県人会のエイサーとも共演し、沖縄独特のリズムに会場からは、自然と手拍子が起こっていました。



砂川国夫さん



美作大学沖縄県人会

きらめく 津山人

30歳の津山っ子実行委員会 副代表 村上 琢磨さん(椿高下)



人とのつながり

津山を盛り上げたい

来年1月4日に、今回で2回目となる、津山にゆかりがあり30歳になる人が集まるイベント「30歳の津山っ子」の実行委員会副代表・村上さんにお話を伺いました。

「30歳の津山っ子」をなぜ開催しようと思ったのですか？

わたしは以前から、津山を元気にしたいという思いを持っていて、何か若い人が集まってくれていいかなと思っていました。そして、同じ思いを持つ仲間と一緒に、30歳を迎える人が集うイベントを行うことになり、今年1月に最初の「30歳の津山っ子」を開催しました。

りの大切さを感じ始め、家庭を持つなど少し生活が落ち着き、自分の身の周りのことが見え始めます。そんな時に同年代の人が集い、交流することで新たな人脈やつながりができ、それをお互いに仕事や私生活に生かしたら、津山がより元気になると思っています。

大人になると、同年代の人が集まる大きな行事は成人式ぐらいしかないので、このイベントを新たな津山の定番にしていきたいですね。

参加者にどんなことを感じてほしいですか？

人とのつながりの大切さを感じてもらい、人の輪を広げてもらえたらうれしいですね。また、津山で生まれ育った人や、津山に今、住んでいる人たちが集い、そこからできるつながりが、何か津山を元気にするきっかけが生まれるといいですね。

実行委員会には、どんな人が参加していますか？

わたしは着物を着ていますし、会社員や主婦などさまざまな人が参加しています。また、年齢も30歳に限らず、自分たちが30歳になったらこういったことをしたいという思いを持つ20歳代の人も参加しています。新しい意見をどんどん取り入れていきたいですね。

今後、津山がどんなまちになればいいと思いますか？

観光や移住などで人が来てくれる魅力のあるまちになればいいと思います。

人が来れば、新しい情報も一緒に入ってくるので、新たなビジネスなどを生み出す力になります。それが、津山の情報を発信するきっかけにもなると思います。そのためにも、津山に住んでいる人に津山の良さをもっと知ってほしいですね。

来年1月の「30歳の津山っ子」では、どういう企画がありますか？

昨年参加した人からの意見を参考に、実行委員会でもさまざまな企画を考えています。みんなで鶴山公園に上ったり、津山産の食材を使った料理を楽しむなど、参加者同士がより交流を深められるような企画を考えています。



昨年の「30歳の津山っ子」の様子

「30歳の津山っ子」で生まれたつながりで、津山のまちが元気になればいいですね。